

# 2024 年度 日本ポーラログラフ学会 「志方国際メダル」および「志方メダル」選考結果報告

選考委員会委員長 安川智之

志方メダルは、2つのカテゴリーに分類され、本会規程によって、

1. 電気化学測定法、電気化学反応、電気化学分析法、その他の電気化学関連領域において顕著な業績を上げ、世界的に高く評価されている国内外の研究者に「志方国際メダル」を、
2. 若手会員(受賞年の4月1日の年齢が45歳まで)で、女性会員については、受賞年の4月1日現在で48歳以下)で、将来の発展が期待でき将来の発展が期待できる顕著な研究業績を収めた者に、研究奨励賞として「志方メダル」を、

授与することと定められている。

本規程に基づき、本年度推薦・申請のあった者に対して、5名の選考委員からなる選考委員会は慎重に審議した結果以下のように決定した。なお、選考委員(5名)の中の2名に志方メダル受賞候補者1名(田原氏)との利害関係ありと認められましたので、上記2名の選考委員には田原氏に対する選考についてご辞退いただくことになりました。

## 1. 志方国際メダル

以下の1名を受賞者とする。

受賞者氏名(所属)：

Erkang Wang 氏 (Changchun Institute of Applied Chemistry, Chinese Academy of Science)

受賞業績：

Modern Nano-Electroanalytical Chemistry

受賞理由：

5人の選考委員で審査した結果、評価基準のいずれについても高く評価され、全会一致で志方国際メダルにふさわしいと判断した。主だった意見は下記のとおりである。中国の電気化学を牽引してきており、特に、電気化学発光法による多彩な分析手法の学理を創生するとともにその実用化に尽力している。また、AptamerやSingle-Atom Nanozymeの研究は先駆的で魅力的である。これまでの1000報を超える国際誌への貢献や数多くの受賞から国際的な評価が極めて高い。本会の会誌への投稿もあり本会活動にも貢献されている。以上より、Wang氏は志方国際メダルの受賞にふさわしい。

## 2. 志方メダル

以下の2名を受賞者とする。

受賞者氏名(所属)：

横山 悠子 氏 (京都大学大学院工学研究科)

受賞業績：

電解液の電解特性と平衡論・反応速度論的解析

受賞理由：

5人の選考委員で審査した結果、評価基準のいずれについても高く評価され、全会一致で志方メダルにふさわしいと判断した。主だった意見は下記のとおりである。電解液の電解特性についての基礎研究を幅広く行っており、超高濃度水溶液中での水濃度低下による酸素・水素発生反応の抑制機構の提案、局所pH測定法の開発、定常電流電位曲線解析法の確立などを展開してきた。これらを電池電解液設計への応用に展開する等、将来的な発展性も極めて高い。本会会誌への投稿、本会討論会での積極的に発表および運営への協力があり、本会への貢献も大きい。以上より、横山悠子氏は志方メダルの受賞にふさわしい。

受賞者氏名（所属）：

田原 弘宣 氏（長崎大学総合生産科学域）

受賞業績：

レドックスイオン液体の開発と電気化学特性に関する研究

受賞理由：

5人の選考委員のうち2人が利害関係者で辞退したため、残りの3名で審査した結果、評価基準のいずれについても高く評価され、全会一致で志方メダルにふさわしいと判断した。主だった意見は下記のとおりである。レドックス活性型イオン液体を新規に開発し、その物性評価、電気化学的特性の基礎評価について優れた報告を行っている。低融点、高安定性、高可逆性のレドックスイオン液体の開発をエレクトロクロミズムへと応用する独自の研究を展開しており、その将来的発展性も高く本会への学術的な貢献度は十分高い。ほぼ毎年、討論会に参加して発表し、討論会運営にも寄与されているため、本会への貢献も大きい。以上より、田原弘宣氏は志方メダルの受賞にふさわしい。

以 上